

2018年6月26日
丸紅株式会社

インドネシア共和国ランタウ・デダップ地熱発電プロジェクトの 融資契約締結・着工開始について

丸紅株式会社（以下、「丸紅」）は、インドネシア共和国（以下、「インドネシア」）ランタウ・デダップ地熱発電プロジェクト（以下、「本プロジェクト」）に関し、ENGIE S.A.、PT. Supreme Energy、および東北電力株式会社と共同出資する PT. Supreme Energy Rantau Dedap 社（以下、「SERD」）を通じて、2018年3月に融資契約を締結（以下、「本融資」）し、同年4月に地熱発電所の着工を開始しました。

本融資は、株式会社国際協力銀行、アジア開発銀行、株式会社みずほ銀行、株式会社三井住友銀行、および株式会社三菱 UFJ 銀行が協調融資を行うプロジェクトファイナンス^(*)で、本邦商業銀行の融資には株式会社日本貿易保険の保険を活用しています。

本プロジェクトは、SERD がインドネシア・南スマトラ州において発電容量 98.4MW の地熱発電所を建設し、30 年間に亘り保守・運転し、インドネシア国有電力会社 PT. PLN (Persero)（以下、「PT. PLN」）に対して売電するものです。地熱発電所建設にあたり、タービン、発電機の納入を富士電機株式会社、土木基礎工事を PT. Rekayasa Industri が担います。高品質な日本製機器の使用、また両社の持つ豊富な実績、インドネシアにおける地熱発電所建設の経験を活用することで、高効率な地熱発電所プラントの建設が期待されます。

インドネシアは、再生可能エネルギーの開発を推し進めており、2025 年までに再生可能エネルギーが占める発電容量の割合を 23%へ引き上げることを電力供給事業計画の中で掲げています。また、インドネシアが保有する豊富な地熱資源量の活用、発電燃料の多様化の観点から、地熱資源の開発を推進しています。

丸紅は、これまで蓄積してきた地熱発電事業の実績・経験を基に本プロジェクトを通じて、インドネシアにおける電力の安定供給に貢献すると共に、今後世界的に需要の高まる地熱発電事業を含む再生可能エネルギー発電事業の更なる拡大を図っていきます。

(*1)プロジェクトから生み出されるキャッシュ・フローを主な返済原資とする資金調達方法

以上

<ランタウ・デダップ地熱発電プロジェクト概要>

- ・発電容量 : 98.4MW
- ・運転開始 : 2020年8月（予定）
- ・売電先 : PT. PLN
- ・売電期間 : 30年間

<関連ニュースリリース>

- 2011年：インドネシア地熱発電プロジェクトへの参画について
https://www.marubeni.com/jp/dbps_data/news/2011/110617.html
- 2012年：インドネシア・Rantau Dedap 地熱発電プロジェクトの長期売電契約締結の件
https://www.marubeni.com/jp/dbps_data/news/2012/121113.html

<試掘井戸>

